

上田ゆきこ

私たちの声の
代表者 上田ゆきこ

無所属

上田ゆきこプロフィール

- 1981年(昭和56年) 富山県生まれ 双子座 O型
- 2000年(平成12年) 富山県立高岡高等学校卒業
- 2005年(平成17年) お茶の水女子大学文教育学部卒業
- 2007年(平成19年) お茶の水女子大学院修士課程修了
- 2007年(平成19年) 文京区議会議員初当選
- 2011年(平成23年) 文京区議会議員二期目当選
- 2015年(平成27年) 文京区議会議員三期目当選
- 2017年(平成29年) 文京区監査委員(～平成30年6月)



現在

- 総務区民委員会理事
- 災害対策調査特別委員会理事
- 地域振興まちづくり調査特別委員会理事
- 文京区消防団運営委員
- 文京区国民健康保険運営協議会会長代理

上田ゆきこの議会活動レポート Vol.46

2018年11月27日

mail: info@uedayukiko.jp

発行 ぶんきょう未来
〒112-0003
文京区春日 1-16-21 シビックセンター 22 階
FAX 03-3942-4888

あなたの
想いを
聞かせて
ください。

homepage

facebook



上田ゆきこの

仕事の流儀

無所属

上田ゆきこは、政党のしがらみにとらわれず、一住民の立場で考え、行動するために、25歳で政治活動を始めてから、ずっと無所属で活動をしています。



政策 理念

3つの視点を備えた具体策にこだわります。

1. 持続可能性

長期的な視点で事業・行政・財政をチェックし、将来世代へのツケの先送りを防ぎます。

2. 多様性

働き方・家族構成・個人の個性等、様々な生き方あり方を応援し、都市生活を豊かにします。

3. 地域密着

こまめな広聴活動を通じ、身近な地域課題の解決を図り、コミュニティ生活を快適にします。

ミッション

3つの議員の役割を果たします。

1. 区民実感ある政策提案

「それ困ってたの」「変わってよかった」という実感が伴う身近な生活に根差した提案を行います。

2. 熟練した行政チェック

議会技術を駆使して、「ムダがないか」「間違いがないか」等を確認・調査します。

3. 議会の多様性と合意形成への貢献

区民の今と未来のニーズを汲み取り、議会に新しい概念をもたらします。また、議会全体の機能を高め、区と対峙するために協調して働きます。

行動指針

様々な地域ニーズの
「間をつなぐ」仕事をします。

1. 住民と行政の間をつなぐ

住民の声で暮らしやすいまちをつくります。

2. 住民と住民の間をつなぐ

「互助」「共助」「近助」のサポートします。

3. 行政と行政(関係機関)の間をつなぐ

住民目線で縦割り行政を解消します。

基本政策

8つの
ふみ みやこ
“文の京スタンダード”を確立します。

文京区の人口分析から特徴的な①高齢者人口、②年少人口、③外国人人口の増加にも対応する政策が新たに必要だと考え、以下の8つの“文の京スタンダード”(文京区の公共サービスの高い基本水準)を確立するための施策を提案します。



子育てニーズへの質と量の充実

- 保育園定員の拡充と幼児教育の充実
- 妊娠期からの切れ目のない子育て支援体制



子どもの力を信じて引き出す日本一の学力

- 国際バカロレア認定の国際学級の設置
- お茶大附属小“てつがくか”と連携した思考力の開発
- ICT教育環境の充実



地域で支えあう高齢者支援

- 元気高齢者の活躍支援
- 介護人材・定着支援事業の推進



いつも身近にある文化・芸術・生涯学習

- 区内芸術鑑賞学割の拡大
- 大学等と連携した生涯学習のさらなる推進



備えて知って安心できる災害対策

- 受援計画の拡充と区内団体等との協定の拡大
- 地域防災力向上と災害に強い都市整備の推進



医療・健康・スポーツ環境の充実

- 学校施設等のスポーツ施設の地域開放・動線整備
- 不妊治療助成の所得制限の引き上げ



まちづくり・コミュニティ支援

- 区施設を活用しやすいBーぐる路線の拡大と再編成
- 地域住民主体のまちづくりの支援体制整備



差別や格差のない多様な生き方支援

- 障がい者差別解消条例策定と心のバリアフリー推進
- 地域の外国人とのコミュニケーション機会の創出
- 性的マイノリティのパートナーシップ制度

report

NEW! 9月定例議会本会議で質問しました。

病児・病後児保育の地域バランス等について

Q 区では病児・病後児保育のベビーシッター助成が行われているが、高額であり、まだまだ施設ニーズは高い。施設整備を春日駅前だけでなく、西側の小石川地域での実施も検討してほしい。

A 開設場所を検討するには、既存施設との位置関係への配慮が必要と考えており、ハード面での基準を満たす物件確保のほか、医療機関の協力も不可欠のため、これらを勘案し、開設場所の適否を検討する。

区長

茗荷谷駅周辺エリアの教育・文化機関との連携等について

Q 茗荷谷周辺は多くの教育機関や教育施設、教育関連産業が集積するエリア。小石川図書館を“点”として改築するだけでなく、茗荷谷駅周辺エリアを“面”で区の生涯学習拠点エリアとして、各教育・文化機関との連携と、そのための整備を行ってほしい。

A 茗荷谷駅周辺にある文化・生涯学習施設等や、新たに図書館サービス機能等を含む地域活動センターの移転整備が都営バス大塚支所跡地のような地域資源が、学生を含む区民等に活用されるよう、小石川図書館の改築や、都営バス大塚支所跡地の利活用にあたり、各大学や関係機関との連携について検討する。

区長

お茶の水女子大学附属小学校「てつがく科」の出張授業及び教員研修について

Q 区内大学連携を通じて、お茶の水女子大附属小「てつがく科」の出張授業を行っていただいたり、教員研修に取り入れるなどしてはどうか。「てつがく」は論理的で深い思考力を開発する国際バカロレアとも関連する。

A 区でも新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」も実現に向けた授業改善についての研究を進めている。「てつがく科」の授業については今後研究する。

教育長

政策実現のポイント 3つの技術で区民の声を形にします。

1. 必要性

具体的事例の丁寧なヒアリングによる課題の洗い出しや統計等の分析・活用等を組み合わせ、区民の必要性や優先度の高さを示します。

2. 論理性

提案をアウトカム志向の政策ロジックモデルに落とし込んで、論理的に政策の実現性、喫緊性、検証方法、タイムスケジュール等を説明します。

3. 継続性

お役所の「できない理由」を一通り聞いた後でも、一つ一つに対応する解答を見つけながら、「あきらめずに」「しつこく」「繰り返し」提案・説明・要望を続けます。

NEW! 9月補正予算で

平成30年度一般会計が

1000億円超

になりました。



教育長に予算要望を提出

平成30年度は当初予算の段階で史上最大規模966億4700万円の一般会計予算を計上していましたが、9月補正予算の段階で101,676,862円と文京区初の1000億円を超える予算規模になりました。主な要因は前年度決算剰余金1/2の積立金が約35.6億円、保育所待機児童対策関係経費が約4.1億円、ブロック塀の改修助成が約1.1億円の増等です。

人口増もあり、29年度決算ベースから考えても、次年度は当初予算から1000億円超の積極予算が組まれることも予想されます。

今年6月まで監査委員をさせていただいた経験を生かして、ムダがないようしっかりと審査していきます。

また、平成31年度予算に関する要望を会派で提出しています。

NEW! 昨年から手話の勉強をしています。

今年の3月に初級クラスを修了しました。今、中級クラスで学んでいます。手話だけではなく、聴覚障がい者の生活や歴史についても勉強します。聴覚障がいはもちろん、障がい者福祉全般について、思い、考え、感じる機会になりました。本会議一般質問でも一部手話を取り入れています。

